

2025年度
新オプション検査

ROMA

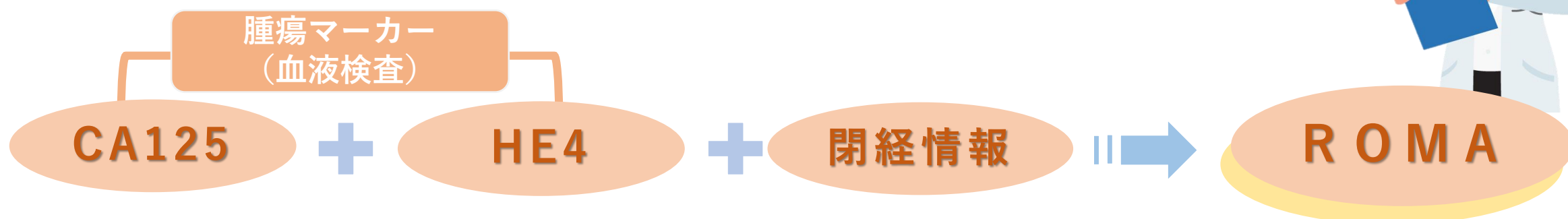
ローマ



ROMA とは卵巣がんの可能性を予測する検査です。



2つの腫瘍マーカー（CA125とHE4）と閉経情報を組み合わせて判定することで卵巣がんの検出率が高まります。



CA125

CA125は婦人科領域でよく利用される腫瘍マーカーで、卵巣がん全体では約80%の陽性率を示します。

しかし婦人科良性疾患や、月経周期や妊娠でも変動します。

HE4

卵巣がん患者の血液中に高濃度で検出され、卵巣がんの90%を占める上皮性卵巣がんが高値を示します。婦人科良性疾患やホルモン周期による影響を受けにくいとされています。

閉経情報

基準値が閉経前か閉経後かで異なるため、大変重要な情報となります。問診の際にお伺いしますのでご協力をお願いいたします。

このような方にお勧めの検査です



- ✓ 初経が早い
- ✓ 閉経が遅い
- ✓ 出産経験がない
- ✓ 長期にわたるホルモン補充療法を受けた方



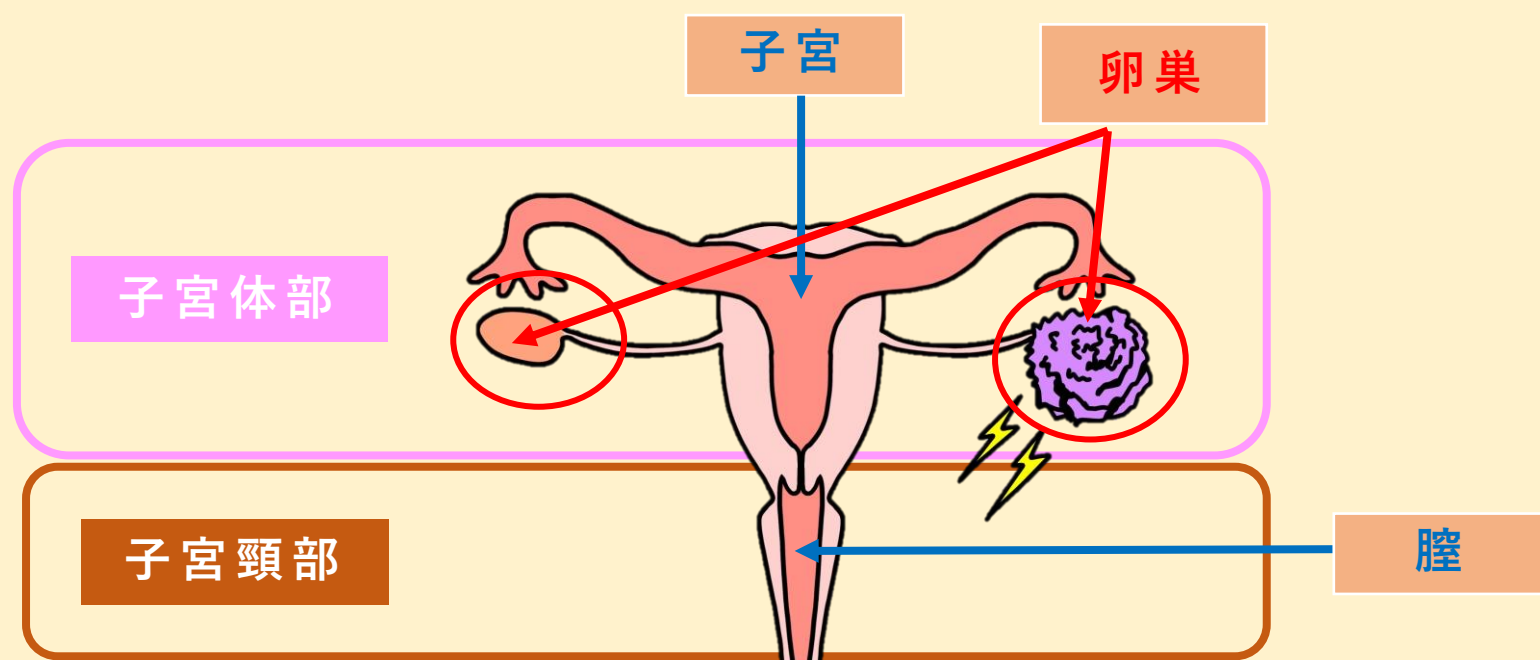
ROMA

ローマ



卵巣がんとは

卵巣がんは40歳代から増加し、50歳代～60歳代がピークであり、年々増加傾向にあります。
卵巣は骨盤内臓器のため、**発見が難しく**卵巣がん初期の段階では、自覚症状がほとんどなく、
症状が現れた時にはすでに進行していることも少なくありません。



Q & A

Q. どのような検査をするのでしょうか？

A. ROMAは健診時に採血した血液で検査をします。

Q. 子宮がん検査とは違うの？

A. 子宮がんと卵巣がんでは発生部位、検査方法が異なります。
両方の検査を受ける事をおすすめします。

Q. 生理中でも検査は可能ですか？

A. 生理中、ピル・ホルモン剤服用中、授乳中の方も検査は可能です。

Q. 妊娠中でも検査は可能ですか？

A. 妊娠中は、数値に影響を及ぼしますので検査をおすすめしていません。

Q. 悪性腫瘍の治療歴があっても受けられますか？

A. 悪性腫瘍の治療歴がある方、化学療法中の方はROMAの有用性は確認できていないため、検査をおすすめしていません。

